児童に見られるつまずき

　被乗数と乗数の関係を理解することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　アレイ図の○の数をまとまりで見てかけ算と結び付けて説明させることで、「何のいくつ分」としての見方をもたせる。

指導事例集ｐ．５１

１　学年・単元名　　第２学年　かけ算（数と計算領域）

２　単元目標

・アレイ図の便利さに気づき、進んで九九を構成しようとする。また、九九のよさがわかり、進んで用いようとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【関心・意欲・態度】

・アレイ図や、かける数が１増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【数学的な考え方】

・九九を唱えたり、それを適用して問題を解くことができる。　　　　　　　　　　　 【技能】

・アレイ図を使った九九の構成の仕方がわかる。また、かけ算が用いられる場面がわかる。

【知識・理解】

参考：単元について

３　単元の内容

**・アレイ図の使い方と６～９、１のだんの九九の動機づけ**

　・６の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題

　・７の段の九九の構成と唱え方、練習と適用題

　・８、９の段の構成

　・８、９の段の九九の唱え方、練習と適用題

・１の段のかけ算の意味、1の段の九九の構成と唱え方

　・６、７、８、９、1の段の九九の練習、適用題、」問題づくり

・かけ算を使った問題（1時間）

・さがしみよう（1時間）

４　本時の目標

　　アレイ図を使ってかけ算が構成できることを理解する。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　本時の課題をつかむ。  ・既習内容を確認する。  ・●が並んでいる。  ・縦も横も9個ずつ  ・九九  ・1の段から9の段  図を使って、九九を作ろう  ２　解決への見通しを持つ。  ●●●　　　4×３のアレイ図  ●●●  ●●●　　　　　　　　●の数を考える。  ●●●  ・数える。  ・たす。  ・3×４よこに3つあってそれが4段  ・4×３たてに4つあってそれが3列  ・6×２　2×６  ３　問題を解決する。  ・4×4  ・4×５～4×9の図を作る。  参考：授業の様子  ４　適用題に取り組む。  ・６×４のアレイ図を考える。  ●●●  ●●●  ●●●  ●●●●  ●●●●  ●●●●  ・7×3のアレイ図を作る。  ２１個のブロックを並べましょう。  ・8×6  ・9×5    参考：授業の様子  ５　本時のまとめをする。  学習を振り返る。 | ・4の段までの九九の構成の方法（同数累加）を確認させる。  ・アレイ図を見て気づいたことを話し合わせる。  ・九九に注目した場合はその理由も発表させる。  ・●の数を答えさせ、その根拠を説明させる。  ・実際に数え確認させる。  ・ここでは被乗数がまとまりでとらえられていれば、どの式も認める。  ・アレイ図でかけ算の式が構成できることをおさえる。  ・4×４のアレイ図を教師が操作し、乗数になる方を動かしてみせる。  ・4×５～4×9を実際に自分で図を操作させる。  **・たて列を被乗数にすることを確認し「たてに４個ずつ５列あるから４×５」と声に出させ、操作させる。**  ・ペアで相談しながら、答えを予想させる。  ・かけ算を使うために必要なことを考えさせる。  **・６×４の式にするにはどこに書き足せばよいかを確認させる。**  ・21個のブロックを操作し、アレイ図を考えさせる。  ・３×７　１×２１　２１×１が出たら認める。  **・まとまりを考えることで、かけ算が構成できることをおさえる。**  ・8の段や、9の段も構成できることに気づかせ、意欲を持たせる。  ・９×５の図を作り、その図を描かせることで正しくアレイ図が操作できたか確認させる。  ♢：アレイ図を使ってかけ算を構成できることが理解できたか。【技能・知識】  ・本時の学習についてのふりかえりを書かせる。  ・次時は6の段の構成をすることを知らせ、意欲を持たせる。 |